

高浜町 マリンビジョンニュース 第3号

TAKAHAMA TAWN MARINE VISION REPORT-No3

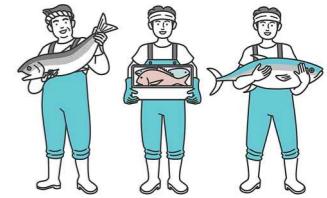
2025年(令和7年) 11月7日(金曜日)

編集・発行：高浜町産業振興課

〒919-2225 高浜町宮崎第86号23番地2

電話：0770-72-7705 FAX:0770-72-4000

メールアドレス : machi@town.takahama.lg.jp



第3回委員会が開催されました

■第3回高浜町マリンビジョン策定委員会が開催されました

第2回高浜町マリンビジョン策定委員会（9月19日開催）に引き続き、去る令和7(2025)年10月21日（火曜日）14時から、第3回目の委員会が、高浜町役場の第1・2会議室で開催されました。

渡慶次委員長（福井県立大准教授）の進行により、今回も参加委員による円滑で活発な意見交換の場になりました。

また、別件で来町されていた水産庁信夫次長が委員会後半から出席され、高浜町における海業振興とマリンビジョンにエールをいただきました。

第2回委員会での、将来の高浜町の活性化に向けた「漁業振興」、「流通・加工」、「人口・就業者（担い手）」をテーマにした、2テーブル（漁業関係者中心のテーブルと観光や流通中心のテーブル）セッションの結果を踏まえて、同じく2つのテーブルに分かれ、高浜町における「海業」振興の未来に関する熱心な意見交換が行われました。

最後にテーブル毎に代表者が「海業」振興についてどのような意見でたかを発表し、異なる立場の人人が何を考えているのかを知る良い機会になりました。

その後、事務局から最終的な高浜マリンビジョン構成案イメージが紹介され、委員の了承を得ました。



(委員会での意見交換の様子)

■第3回委員会の進め方

話題提供（事務局）

①第2回委員会の振り返り

第2回委員会での話し合いの結果をまとめて、委員のみなさんに共有しました。

②テーブルセッション（2テーブルに分かれ、自由討論）

Aテーブル（漁業関係者中心）

Bテーブル（観光他関係者中心）

共通テーマとして、今後の高浜町における「海業」の振興について、高浜町の強み弱み及び、外から見た強み弱みの視点で意見交換を行いました。

Aテーブル検討結果の発表

Bテーブル検討結果の発表

委員全員による異なる立場の人たちの意見の共有

最終的な「高浜町マリンビジョン」策定（構成）案イメージの確認

AテーブルとBテーブルの意見発表

テーブルセッションの後、2テーブル毎に、代表者が、高浜町における「海業振興」をテーマに話し合われた結果を発表しました。それぞれの立場により、異なる意見があることが委員全員に認識され、次回以降、委員会で予定されている高浜町マリンビジョンの具体的な内容の議論に向けた貴重な情報が共有されました。

■Aテーブル（漁業関係者中心メンバー）の主な意見交換結果発表

基本的に観光でやって来る人に、高浜に住んでみたいと思ってもらうにはどうしたらいいかということをメインに話しました。内浦地域では、外から来た釣り人が漁港を中心に釣りをする場がいくつかあります。漁港などで釣りをする人は、京都や大阪などやや遠方から来られる方が多いようです。

海業振興に関する高浜町の強みですが、「海がきれい」とか「青葉山等の自然のアクティビティが豊富」といった点があがりました。その他「空き家が最近利用されてきて、外から来た人や外国人の方に住んでもらう」という話もありました。

過疎高齢化が進み地域活性化の必要が大きい「内浦地域で海業を振興する力になってくれそうな漁師（養殖漁業者）が3人いる」という話も出て「少人数でも元気な漁師さんや民間のダイビング事業者が内浦の海業をひっぱっていくことができるのではないか」という期待の声も聞けました。

一方、高浜の弱みについては、「お土産などの種類が少ない」、「釣り客などのゴミやマナーの問題がある」ことに加え、「このような問題に対応できる人手不足」などの意見があがりました。弱みというか問題は大変多いので、海業振興に向けて、今後解決していかなければいけない課題自体は多いと思います。

外からみた強みですが、基本的には観光客、釣り、サーフィン、特に内浦地域では、民間ダイビングショップを通じてダイビング客が多く、民間事業者と協力・連携して、地元の良さ知つてもらうことが重要です。高浜に住みたいと思うようになる人の拡大に向けたアピールにつながっていくのではないかとの話もありました。さらに、「高浜町では最近、テレビやSNSで発信することが多く、効果が出てきているのでは」「上瀬区から海岸沿いに舞鶴まで周回できる道路が欲しい」との意見もありました。次に外からみた弱みですが、「人に来てもらってあまり地元にお金が落ちないのでは」という意見がありました。経済的効果は、現実的には弱そうだということです。例えば、「日帰りの人が増えた」という話があり、「宿泊施設はあるが、泊まる人より高速道路を使って帰宅する人が多い」のではないかという意見が多く聞かれました。

魚が美味しいなどのPRの点でも、「魚が美味しいだけでは、海が近いのは近隣地域と同じ条件なので差別化としては弱い」、つまり、高浜だけの売りにはならないという意見です。

スーパーの魚売場が好き。高浜独自の1点物が欲しい

旅は旅先の“人が目当て→地元の人と出会える場の情報が欲しい



(Aグループ代表者の発表)

■Bテーブル（観光関係者他メンバー）の主な意見交換結果発表



福井県立大生もひとこと

ザックバランに、思いつきのような感じでみんなの意見を出し合ったのですが、なんとなく最後はまとまってきたのかなと思います。

まず、交通です。「国道や駅と海が結構近いので交通的にはすごくいい場所にある」との意見がありました。しかし、電車を見ると、1時間に1本しかなかったり、大阪への直通バスも無くなったりと、公共交通の便自体は悪くなっている。一方、自家用車などで来るのはすごく来やすい場所なのは利点だと話がありました。

また、海業振興に向けた「コンテンツ自体は結構ある」との意見が上がりました。「海水浴」があり、「宿」ももちろんあるし、「内浦のきれいな風景」もある。「城山」もある、「魚」もある、「釣り」もある、「サーフィン」もある。しかし、コンテンツは色々あるけれども、1日高浜で過ごせるコンテンツが、あんまりないというのが若干弱みだと思います。僕も実際に友達が来た時に、1日過ごせなくて、雪が見たいと敦賀に行かれちゃったりしました。1日お勧めできるコースがない。半日でさえない。なにかそういう、「1日過ごせるような体験パックみたいなものがない」といったことが弱みかなという話がでした。

また、「一見さんが、結構来づらい」との意見もありました。例えば、サーフィンや釣り客は目的を持って来ているのですが、それ以外の人に向いたコンテンツが、あまりないっていうのが、過ごしづらい要因なのかもしれません。町内の旅館に泊まる人も、天橋立観光の中継地点になっているみたいだ。「高浜でそのまま定期間過ごすという方向になりにくい」。

魅力的なコンテンツというのは、結構難しい。しかし、逆に考えると、コアなコンテンツみたいなところに焦点を絞って間口を広げるっていうのもありかなと思います。よく若い人に、「漁師さんとの接点が欲しい」といったことをいわれます。漁師の案内人みたいな人がいてくれると、ちょうどいい接点になるのかなと思います。漁師にどうやって利益のある形が作れるか、というのを考えながら、外の人と漁師の接点、ひいてはローカルの魅力をちゃんと伝えていく接点みたいなのがあればいいだろうなと思います。それにはやはり、宿の人も、ビーチサイドの人も船でカフェみたいな、飲食店みたいなところも含めて、これだけ海関係で色々な業種の人が集まっているところなので、色々相互に連携していくことが重要なのかなと思います。



(Bグループ代表者の発表)

第3回 高浜町マリンビジョン検討委員会で出た主な意見(テーブルセッションの概要)

令和7年10月21日に開催された「第3回高浜町マリンビジョン検討委員会」のテーブルセッションで出された主な意見を下図にまとめました。将来の高浜町における「海業振興」に向けて、2テーブルに分かれ、高浜町の強み、弱みと、外部から見た強みと弱みについて活発な意見交換が行われました。

Aグループ(漁業関係者中心)

【海業振興】

高浜町の強み

夏の若狭湾はおだやか
(比較的安全)

青葉山(若狭富士)

嶺北から海水浴客がくるようになった

刺網でとれるゲジや中・小ゲジなど市場価格がつきにくいゲジも地元住民は食べる→キズがあっても小さくてもゲジはおいしい

サーフィン客(冬場)や周年を通じて釣り客(日引等)が多い→※地域にお金が落ちるしくみが弱い

駐車場料金・環境協力金やレンタルサーフィンなど検討の余地あり

海(水)がきれい

内浦湾で養殖した場合、浮遊ゴミの影響が少ない

利活用可能な漁港の生き水域の増加

空き家に外国人が住んでくれている(事代地区)
サーファーに定住してもらう。

内浦地域の海業推進主体となり得る3養殖業者がいる
民間ダイビングショップと協力した内浦海業振興の可能性

原発放流口には魚が多い

【海業振興】

高浜町の弱み

新しい取組を始める際に人手が集まらない

特定地域づくり協同組合の活用余地はないか

漁港内の漁船が減少

空き家の別荘化の話で、集落の意見が2分
・空き家の老朽具合
・よそ者への拒否感
・近所づきあい

内浦の地域活力の低下
↓持続的地域振興が必要

海産物の名物土産がない

温泉がない

内浦は、舞鶴が生活圏

舞鶴まで周回できる道路がない

脇坂うみそら公園 駐車場有料化

釣り客と漁業者との Win-win な関係づくり

関西・近畿圏などは近いため(高速道路)日帰り観光になってしまふ

漁業よりもキャンプの方が観光に直結する

福井県立大や若狭高校などが近い

ローカルTVでの高浜町のPR効果がすごい

むしろ遠くから北陸観光を目的とする観光客がターゲットか?

2~4人の少人数だが、関東九州方面からの宿泊客も見られる

全国的に集客能力のある大きな施設がない

魚だけでは人は呼べない。
魚がおいしいだけでは沿岸近隣市町とかぶる

高速道路を使えば、関西が近いため日帰り観光、特に一部の釣り客には漁港利用やゴミ問題などマイナスイメージ

遠方(九州・関東など)からの観光客が増えているが、滞在時間が短い

海洋環境の変化による魚種変化や藻場の減少

↓外の人をまきこんだ、海藻バンク活用の余地は?

外から見た弱み

Bグループ(観光関係者中心)

【海業振興】

高浜町の強み

和田ビーチ
(ブルーフラッグ)

海水浴
マリンアクティビティ
夕日百選

海を見ながら走れる道路

城山公園(きれい)

宿が多い

遊漁船が多い→釣り観光

内浦地域の魅力
・自然
・船小屋の立地

地域のさまざまな産業
が連携できているので
は?

船上カフェや漁船
パレード等の実施

最近、外国人来訪者
が多い

京都のオーバーツーリズム客を若狭に誘
客しやすいのではないか?

中国地方にも誘客圏
を広げる可能性

原発見学ツアーの来訪者を他に
も誘致

北陸新幹線の敦賀延伸
↓
小浜・舞鶴ルートの可能性
はないか?

福井県のPRP(プレミアムリゾートプロジェクト)
の推進

高浜町を含む嶺南6市町に
おける、国のNCR(ナショナルサイクルルート)
指定にむけての動き

↓
嶺南広域観光連携

サーフィン

ビーチスポーツ教室

和田浜、新宮神社
のスポーツ合宿

UMIKARA 食堂と
直販施設

水産女子

全国的観光拠点
京都府に隣接

アクセスがよい

駅と高浜漁港が近い

町の職員含めて、地元の海業
振興に関する積極性

養殖魚やへしこ等
を給食で提供

貝殻や漂流物等
利用の工芸体験

へしこ
フランス料理

釣り→捌き→海水浴→
シャワーのようなつながり

友達(若者)を呼べるほ
どの場所(カフェや遊び
場)がない

海釣り客が多いのに、町
内に釣具店がない→桟橋
などにあるといい

民宿経営後継者が少なく、
今後廃業増加懸念

漁港利用時の手続き
(町→県→国)が複雑

漁火想のsuchなキャン
ドルイルミネーション
を続けて欲しい

一見さんに、高浜の樂
しみ方が分かりにくく

泊り客が少ない
→観光中継地点化

近年の海水浴離れによ
る観光客全体の減少

近年の原材料費の高騰に対
し、観光面でも価格転嫁しに
くい状況

観光・海業振興に関する取組含めて、町、県の行政
手続きが煩雑で時間がかかりすぎる

高浜町の弱み

漁師との接点が欲しいが
少ない→本物の漁師案内
人が欲しい

シーズンオフの浜辺のゴミ

冬のアクティビティ不足

漁港の敷居が高い

漁港近くで宿泊できる
施設が少ない

“氷見といえばブリ”
のような代表的な食べ物がない

原発に対する負のイメージ

交通の便が悪い(電車)

電車の本数が少なく、
終電の時間も早い

都市圏からの直通バス
がない

車がないと不便
↓
駅で電車を降りてからの
交通手段がなさすぎる

外から見た強み

外から見た弱み